

九寨溝・黄龍だけでない魅力の数々 新たなアプローチで素材の掘り起こしを

中国四大古城の一つ閬中

古代には「巴蜀」の異名もあった四川省は、土地が広大で作物も豊富なことから「天府の国」とも呼ばれていました。周囲を除しく高い山で囲まれた自然の豊かな地域には、九寨溝や黄龍、峨眉山と楽山大仏など、世界自然遺産と世界文化遺産も点在しています。

1970年代までその存在を知ら

れていなかった九寨溝に象徴されるように、今世紀に入つて鉄道や道路、空港、ホテルといった観光インフラの整備が急速に進む中で、これらの世界遺産は中国南西部における人気の高い観光地となりました。

そうした中であつて、四川盆地の北東部に位置する閬中やカンゼチベット族自治区の東部にある景勝地・丹巴なども、

15の少数民族が省内に住んでいる四川省の多様な文化や歴史の奥深さを感じさせる存在として注目を集めてき



多くの文人に詩歌を詠じさせた閬中の美しい家並み



山腹に広がる石積み民家が印象的な丹巴

長江の主要な支流である嘉陵江の中流域に開けた町である閬中は、古来から巴蜀における軍事上の要衝とされてきており、戦国時代の紀元前330年には巴国が都として定め、三国時代には蜀の武将・張飛が巴西太守として

ています。

て統治したことも知られる歴史的地です。また、町並みの美しさも昔から有名で、唐代の詩人・杜甫をはじめとする多くの文人が訪れて詩歌を詠じてきました。

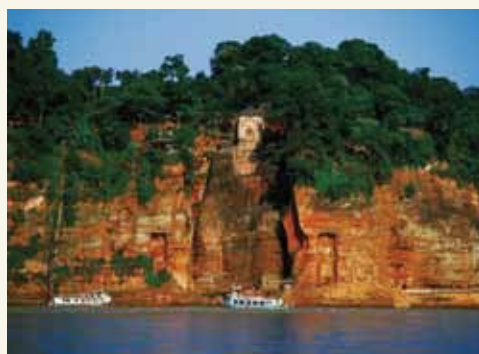
閬中市内を流れる嘉陵江の北岸には、2300年も前に築かれたという閬中古城の古い町並みが残されており、中国四大古城のついに数えられてい



2300年の歴史を持つ城壁の町である松潘



「仙境」「童話世界」と讃えられている九寨溝



高さ71メートルの楽山大仏は世界最大の坐仏



湖沼群が棚田状に連なる黄龍は世界自然遺産

ます。唐宋時代に風水の考え方に基づいて碁盤の目のように築かれた町並みに現存する多くの建物は明清時代のものです。古い屋根が連なる景観も印象的です。

「最も美しい集落」となった丹巴

四川省の省都・成都から空路で1時間ほど北上した場所にある松潘も、2300年の歴史を持つ城壁の町です。

老城区と呼ばれる城壁に囲まれた旧城内には、古くから中央の王朝と辺境との交易地として栄えた歴史の面影を感じさせる町並みが残されており、夜には東南北の3つの門がライトアップされ、美しい夜景が演出されます。

山腹に広がる石積みの民家と高い塔の景色で知られる丹巴は、中国の地理雑誌で「最も美しい集落」と認められるなど、近年、中国国内でも人気が高まっています。

丹巴は5本の川が交わる交通の要衝



中国仏教四大名山の一つである峨眉山



標高が3000~6250メートルにも及び四姑娘山



四川料理の定番である火鍋は日常的な食べ物

でもあることから、古来より様々な部族が移り住んできた歴史を重ねており、もともと「女王の谷」と呼ばれていた周辺一帯は、その名の通り女王による統治が長く続いた時代もあつて、中国の歴史書『唐書』には「東女国」と記されました。

また、四川省西南部で青藏高原と横断山脈にまたがる稲城は、住民のほとんどがチベット族で、チベット語では「山あいの開けた土地」を意味するダツパと呼ばれています。1990年代半ばに、亜丁自然保護区の写真展で素晴らしい自然が紹介されたことで、稲城も亜丁観光の起点として多くの旅行者が訪れるようになり、観光地として注目を集めるようになってきました。

中国の深奥部に位置する四川省は、日本でも良く知られるようになった観光地以外にも長い歴史と手つかずの自然によつて多くの観光資源や観光素材に溢れており、新たなアプローチによる魅力の掘り起こしが期待されるところです。

世界自然遺産「四川省パンダ生息地」は、臥龍・四姑娘山・夾金山脈から成つており、総面積は9245平方キロにも及びます。成都や雅安など2都市2自治州の12市県にまたがる世界最大のパンダ生息地であり、世界中のパンダの30%以上が生息していると言われます。世界で最も大きなジャイアントパンダの個体群は四川省に存在し、パンダにとつて最高の環境である原生林も多く、そうした事情により「パンダのふるさと」の称号が四川省に与えられることになりました。

日本では、1972年の日中国



四川省に生息する野生のパンダ

パンダのふるさと=四川省 この地ならではの旅の魅力づくに

交回復を記念して中国から東京の上野動物園にカンカンとランランが贈られたとき



中国では古くから神聖な動物とされてきました

た後、現在は、上野動物園と神戸市立王子動物園、和歌山アドベンチャーワールドの3カ所で合計10頭が飼育されています。

ジャイアントパンダは、四川省と甘粛省、陝西省の山岳エリアで限られた地域にしか生息していないため、2015年2月の中国政府による発表で約1900頭しか確認されていません。中国政府のみならず、パンダをシンボルマークとしている世界自然保護基金(WWF)も絶滅の危機に晒された希少動物として保護活動を行つてきています。

四川省では、パンダ館のある成都動物園のほかに、ジャイアントパンダの生態を科学的に研究している成都パンダ繁育研究基地でも自然に近い環境の中で生き生きとした姿を見ることが可能です。